

山形県立東桜学館高等学校 令和6年度 学校評価書

本校に期待される社会的役割(スクール・ミッション)
「高い志」「創造的知性」「豊かな人間性」の基本理念のもと、併設中学校と連携した先進的な理数教育、国際理解教育を実践し、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るとともに、自ら学び、物事に挑戦する心を育み、グローバルな視点を持ちながら、地域社会や国際社会の発展に貢献できる力を育成します。

- 育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)
- ① 地域社会及び国際社会の発展に貢献しようとする高い志を育成します。

② 豊かな感性や探究心と論理的な思考力を基盤とした創造的知性を育成します。

③ 心身ともに健やかで、郷土愛と公共の精神に富む豊かな人間性を育成します。
- 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
- ① 目的意識を明確にし、自立を目指すためのキャリア教育と高いレベルで進路希望を実現することができる学習活動を実施します。

② 科学的思考力や探究する力などの創造的知性を育成するため、「未来創造プロジェクト(総合的な探究の時間)」をはじめとするスーパーサイエンスハイスクールに関する教育活動を実施します。

③ ユネスコスクール認定校として国際交流活動に積極的に取り組むとともに、高いレベルの英語運用能力とグローバルな視点を身に付けるための活動を実施します。

《表の見方について》
評価欄は、学校評価アンケートにおけるA(よく当てはまる)、B(当てはまる)、C(あまり当てはまらない)、D(当てはまらない)に準じている。

I 高い志を持つ生徒を育てる			
目標と方策		数値目標	
1 学習の深化・高度化を図り、知的好奇心を涵養し、自らを高めようとする心を育てる。(教務図書課)		自己評価	外部評価
(1) ICT機器を積極的に活用し、授業改善に努める。また、大学や企業との交流を通して、生徒の興味や意欲を喚起する教育環境を整えていく。また、新学習指導要領完成年度として、観点別評価の在り方を継続して研究していく。 ・ 授業を大切にし、授業を中心とした学習リズムを早期に確立させる。 ・ 授業第一主義を自覚させるとともに、授業以外でも教室が自学自習の場になるような雰囲気づくりを指導する。 ・ 学習方法及び学習計画を自ら検討、修正し自学自習する力を育てる。	【学校評価・生徒2】 「本校では、わかりやすく、進路志望達成に向けた授業がなされている。」の向上	B	B
	【学校評価・保護者5】 「子どもは目標をもって充実した学校生活を送っている。」の向上		
2 他へ貢献する機会を通して、自己を知り他者を尊重する態度を養う。(生徒課)			
(1) リーダーとしての自覚を促し、生徒会および委員会活動の活性化を図るために生徒が主体的に行動する場面を積極的に設ける。 ・ 学校のリーダーとして、模範となるような考え方や行動ができる資質を育てる。 (2) 委員会や広報活動を通じて、地域交流及びボランティア活動を一層推進する。 ・ 生徒会活動やボランティア活動等にも積極的に参加させ、コミュニケーション力や自己表現力の育成を図る。	委員会等の活動報告を学期1回以上行い、生徒主体の生徒会・委員会活動を展開する。	B	B
	地域との連携を模索しながら、地域に貢献できるボランティア活動を実施する		
3 スクール・ミッションを基盤としたキャリア教育の充実を図り、自ら進路を切り開く生徒を育成する。(進路学習課)			
(1)学習指導や進路指導およびSSH関係行事等の相互の関連を重視し充実させる。 (2)教職員の共通理解のもと、足並みを揃えた指導に務める。 (3)個人面談や集会、進路情報等を通じ、第一志望にこだわりをもたせ、進路達成のために主体的に学び続ける姿勢を育てる。	【学校評価・生徒6】「本校では、進路についての情報提供が適切に行われている」 【学校評価・保護者8】「進路に関する情報の提供は適切で分かりやすい」 【学校評価・保護者9】「進路に関するガイダンスや講演会、オープンキャンパスへの参加等が適切に行われている」 【学校評価・保護者10】「進路の目標達成に向けて一人一人にきめ細かい指導をしている」の高評価が80%以上	B	B
4 探究型学習の研究・実践を推進し、学習意欲の向上に導く。(研究課)			
(1)生徒の主体的な学びを支援するため、研究テーマを設定し教科会の充実を図りながら、授業研究をより一層深めていく。 (2)協調学習等を通して互いに学びあう楽しさを実感させ、主体的に学習する態度を育成する。	【学校評価・教員 4】「本校では、協調学習など生徒が主体的に学習する授業についての研究がなされている。」の向上	B	B
5 SSH事業を通し、知的好奇心を喚起し、自己の生き方在り方を考える態度を育てる。(研究課)			
(1)SSH事業の充実に向けた取組を推進するとともに、大学・研究機関や企業との連携を図りながら、外部の研究会に参加できる生徒の育成を図る。 (2)ユネスコスクールの認定を受けて、学校間ネットワークを活かしながら持続可能な発展のための教育を推進する。	外部の研究会に参加した生徒が延べ150人以上。	A	A
	【学校評価・生徒・教員・保護者18】「SSHの取り組みは本校の特色ある教育活動として成果をあげている」の向上		

6 健康・安全の意識向上を図り、自己管理能力を高める。(保健課)				
(1) 健康観察簿等を利用して生徒の健康状況を把握し、保護者との連携を密にしながら生徒理解を進める。 (2) 健康診断で治療の勧めのあった生徒に、早期治療に行く時間を確保する。 (3) 清掃点検・環境点検を実施しながら、生活環境・学習環境を自ら整備する意識を育てる。 (4) 学校生活において、生徒が自覚ある行動と周囲への適切な配慮ができるように指導する。	毎日の生徒の出席率を99%以上に維持する。	B	B	
	「精密検査・治療の勧め」に対する報告を70%以上にする。			
	【学校評価・保護者 15】「教育施設等の環境整備がなされ、生徒の安全や健康に十分に配慮されている。」の向上(95%以上)			
	【学校評価・生徒 15】「私は、自律的な生活を送り、健康管理に努めて積極的に学校で活動することができた。」の向上(92%以上)			
	【学校評価・生徒 16】「清掃活動にまじめに取り組み、学習環境を清潔に保つことができた。」の向上(93%以上)			
	【学校評価・教員 16】「本校では、生徒の心身の健康・安全について十分留意・配慮しながら指導がなされている。」の向上(93%以上)			
	【学校評価・教員 17】「本校では、安全点検・環境点検を定期的に行うなど、環境整備が十分に行われている。」の向上(95%以上)			
Ⅱ 創造的知性を持つ生徒を育てる				
目標と方策		数値目標	自己評価	外部評価
1 授業で生徒の主体的・協働的な学びを育てる。(教務図書課)				
(1) 探究型の学習を通し、主体的・協働的な学びを育成する授業を推進する。	【授業評価 3】「授業後は、学習内容を復習していますか。」の向上	B	B	
	【授業評価 7】「先生の授業には、お互いに学びあったり、協力して問題を解決したりする場面がありますか。」の向上			
	【学校評価・保護者 6】 「進路に応じたカリキュラム編成のもとに丁寧でわかりやすい授業をしている。」の向上			
2 学習メディアセンター等の利用により生徒の探究心を育てる。(教務図書課)				
(1) 学習メディアセンターやまなびあテラス等の利用を促進する。 ① 年次、教科、課と連携し、授業・LHR・受験指導での利用を推進する。 ② 新入生学習メディアセンターORTを実施し、利用についての指導をする。 ③ 公共の施設を有効活用することで、知的好奇心や幅広い学習の機会を確保する。	【【学校評価・生徒 12】「本校のメディアセンターや東根市のまなびあテラス等、公共施設を有効活用し、幅広い学習につなげていますか。」の向上 昨年度は、【【学校評価・生徒 12】「本校の図書館は利用しやすく、校内の学習センターとしての機能を適切に果たしている。」の向上の向上	B	B	
3 基礎学力を保証し、創造的知性を引き出す。(進路学習課)				
(1) 定期的に指導を評価して改善を図る。また、他教科の取組みも参考にしながらより効果的な指導法を模索し、共有しながら積み上げていく。	【学校評価・生徒2】「本校では、わかりやすく、進路志望達成に向けた授業がなされている」 【学校評価・生徒5】「本校では、進路志望達成に向けた個別指導がなされている」の高評価が80%以上	B	B	
	【学校評価・保護者6】「進路に応じたカリキュラム編成のもとに丁寧で分かりやすい授業をしている」 【学校評価・保護者7】「子どもの家での学習の取り組みは質量ともに十分なものである」の高評価が80%以上			
4 進路達成に向けた学習指導の充実を図る。(進路学習課)				
(1) 東桜立志会等を通して難関大志望者の意識の高揚を図り、また、集団としての厚みをもたせる。 (2) 難関大進学志望者への対応、さらには超難関大志望者への指導方針・計画の検討をすすめるためにも、教科研修の充実を図る。 (3) 3年次の進学指導については、指導時期・内容を踏まえながら全職員で当たる。 (4) 「学びの基礎診断」のツールとして認定を受けている各種模試や校内実力テストの実施後、振り返りの機会を確保する。	(1) 大学合格数の目標 ①難関大学合格実人数20名以上(東京大・京都大・国公立大医学部医学科の複数名合格を含む) ②国公立大合格延べ人数50%以上(受験総数比、①を含む) (2) 共通テストの目標 ①共通テスト総合型(1000点満点)の得点率8割以上が20名以上 ②共通テスト総合型(1000点満点)の全国平均点以上が50%以上(受験総数比、①を含む)	B	B	
5 他者と協働しながら、自ら課題を見つけて解決に導き、学びの成果を正しく伝えるための表現力を身に付けさせる。(研究課)				
(1) 生徒が主体的に探究活動に取り組むことができるように未来創造プロジェクトの計画・運営を行う。	【学校評価・生徒 3】「本校では、授業や総合的な探究の時間などにおいて、生徒が主体的に探究活動に取り組むことができるように計画がなされている。」の向上 【学校評価・生徒・教員・保護者 19】「SSHの取り組みは生徒の探究活動に対する意欲や能力の向上に役立っている」の向上	B	B	
	総合的な探究の時間において、地域課題を取り上げるグループが5グループ以上。			

Ⅲ 豊かな人間性を持つ生徒を育てる					
目標と方策		数値目標		自己評価	外部評価
1 家庭・地域との連携に努め、教育活動の充実と生徒の健全育成を図る。(総務課)					
(1)PTA活動や行事が、教員・保護者協力のもと一体となって実施できるよう努める。 (2)各種避難訓練を通して防災意識を高め、主体的に自らの命を守る行動ができるようにさせる。		各種会合や行事への保護者の出席率78%以上。		B	B
		【学校評価・生徒 20】「私は、防災に対する知識を得て、訓練においても適切に自分の命を守る行動ができた。」			
		【学校評価・保護者 16】「PTA活動は、教員・保護者協働のもと活発に行われている。」の向上			
2 情報発信を密にした広報活動に努め、地域に開かれた学校づくりに寄与する。(総務課)					
(1)PTA総会や各種行事, PTA会報や連絡網・各種刊行物を利用して、学校での指導を家庭・地域と共有できるようにする。 (2) ホームページ・垂幕・横断幕等を活用して、外部へのタイムリーな情報発信を行う。また、PTA講演会・公開授業・未来創造プロジェクト発表会・東桜祭等においては、同窓会や地域への広報活動も行う。		【学校評価・保護者 1】「本校の基本理念や学校教育目標をわかりやすく伝えている。」の向上		B	B
		【学校評価・保護者 3】「授業公開、地域行事への参加、広報活動などを通して、開かれた学校づくりに努めている。」の向上			
		【学校評価・保護者 4】「年次・学年だより、年次・学年コラム、PTA会報、進路関係情報誌などの刊行物やホームページを通して、学校の様子がよくわかる。」の向上			
3 読書や探究活動を通じて、生徒の豊かな感性と人間性を育てる。(教務図書課)					
(1) 図書委員会活動の促進 ①読書会等のイベントや広報紙「まど」等で読書を啓蒙する。 ②学習メディアセンターにテーマ別閲覧コーナーを設け、展示の工夫や装飾などで利用しやすい環境をつくる。		読書による幅広い視野と多様性を養うため、未読者をなくす。また、一人平均5冊以上の読書数を目指す。		B	B
4 高い倫理観を持ち、品性ある生徒を育む。(生徒課)					
(1) 各年次団と連携し、教育相談体制の充実を図りながら、問題を抱えた生徒の早期発見と支援に努める。 ・ 挨拶や身だしなみなどの基本的生活習慣を確立する。		【学校評価・生徒 10】「本校では、校内外の規則やマナー指導が適切に行われている。」の各年次ともに85%以上を目指し、生徒の基本的生活習慣に対する意識向上を図る		C	C
5 自らを律しつつ、他と協調する意識を育成する。(生徒課)					
(1) いじめ問題について、LHRで最低1回以上取り組む。また、いじめアンケートを年2回実施し、いじめ防止と早期発見・早期解決を図る。 (2) 生徒会で「思いやりの芽を育てる全校アクションプラン」を実施し、クラスごとにスローガンを交流ホールに掲示する。		【学校評価・生徒 14】「本校では、ホームルーム内のコミュニケーションが十分に行われている。」の向上		B	B
6 部活動を通じて、心身共に健康な生徒を育成する。(生徒課)					
(1) 部活動方針に則り、部活動環境の充実に向けた整備を行う。 (2) 部活動満足度調査を実施し、活動を客観的に評価する。 ・ 部活動に積極的に参加させ、心身共に逞しく成長できるよう支援する。		【学校評価・教員 8】「本校では、生徒が部活動に積極的に参加・活動している。」の向上		C	B
		部活動満足度調査における満足度「大変＋ますます満足」の割合向上。			
7 生徒・保護者との相談活動を通して、問題を抱えた生徒の早期発見と支援に努める。(保健課)					
(1) ケース会議を能動的に行い、SS委員会等で情報を共有し、多くの目で生徒理解に努める。ケース会議の持ち方を改善する。 (2) 教員特に保健課員のカウンセリングマインドを高め、相談しやすい雰囲気と環境を整える。保健室登校の目的と運営に対する共通理解を深める。		【学校評価・生徒 13】「本校は、生徒の心身両面にわたった配慮がなされ、不調時には十分な対応がなされている。」の向上(90%以上)		B	B
		【学校評価・保護者 14】「カウンセリングなどが利用しやすく、心のケアの体制も整えられている。」の向上(80%以上)			
8 地域社会の人々との交流や国際交流活動を推進し、コミュニケーション力を身に付けさせる。(研究課)					
(1) 探究活動等を通じて、大学・研究機関や企業など地域社会の多様な人々とふれあう機会を増やす。		【学校評価・生徒 4】「私は、授業や探究活動など様々な教育活動を通して、大学や企業、地域など校外の方々との交流を積極的に行った。」の向上		B	B